

総合診療室（総診）を経験して

総診実習での臨床実習を経験して

歯学科6年 赤石 真 啓



5年生の夏までは弓道部の活動が学生生活の大半を占めていました。学校がおわるとすぐに道場に足を運び毎日練習ばかりしていました。試合前には少し気合を入れたりしたものでした。

冗談はさておき、それが今では毎日7時まで、技工室に残り、書類を書いたり、技工物の製作をしたりと、臨床実習に打ち込む自分がいます。

昨年末から臨床実習がスタートし、半年以上たった現在も、もちろん経験値がまだまだ足りません。今でも焦っている様子が言葉と振る舞いににじみ出ていると思いますが、はじめはコミュニケーションの取り方から勉強でした。また処置ひとつ行うにしろ手際が悪く、患者様に時間をかけてしまいます。患者様が帰るときには、嫌な顔もせず、ありがとうと言ってくださると、複雑な気持ちになります。反省しつつ、次回はどうかばよいだろうかと考えることがたくさんあります。

ライターの指導の下で実習は行われています。保存、補綴など各分野の先生が、それぞれの見地からアドバイスしてくださります。治療計画立案やレポートのチェックの段階では、すべて答えを教えてくれるわけではありません。また新たな問題を提示し学生に考える機会を与えてくださいます。チェアサイドでは、正確な処置ができるようにいつも目を光らせ、叱咤激励してくださいます。技術や知識だけではなく、心も鍛えられました。

座学だけでは得られないことを、臨床実習を通して学ぶことができました。特に患者様との接し方はその最たるものです。知識や技術も、座学と臨床そ

れぞれフィードバック、フィードフォワードすることで、よりの確に身につけられたのではないかと思います。学生の身分でありながらも患者様と関わり実習できる環境は恵まれています。未熟な私たちに診療の機会を与えてくださる患者様、先生方には感謝しております。残りの実習期間も無駄にせず、そしてよい歯科医になることが何よりであると思います。これからもよろしく願います。

総合診療室での臨床実習を経験して

歯学科6年 小 熊 宗 泰



5年生の11月に総診での臨床実習が始まり、先生方の熱心なご指導のもと、看護師さんや衛生士さん、先輩や同級生たちに支えられ実習期間も残りわずかになってきました。先輩から

患者様を引き継ぎ、総診での治療を開始したものの、総合診療部の仕組みやカルテの書き方などわからないことだらけで戸惑い、患者様に迷惑をかけることもありました。入れ歯の症例においてアルジネート印象を行ったときにうまく採れず何度も取り直して患者様の口の周りをアルジネート印象材まみれにしてしまったり、患者様の前歯の着色をクイックジェットで取る際に、患者様の口腔内にたまった洗浄液をうまくバキュームで吸うことができず、塩辛い思いをさせていただきました。患者様の耐えている顔が今でも申し訳なくて忘れられません。診療が終わると「ありがとうございました」という言葉をかけてくれますが、反対に自分の方が自分の未熟な勉強に付き合って下さり、ありがとうございましたという感謝と反省が入り混じった気持ちになり、診療が終わった時は

「おだいじにどうぞ」という言葉とともに、「ありがとうございました」という言葉が出てきます。また、自分の診療を厳しくも温かく熱心に見守ってくれ、フォローをしてくれる先生方には感謝と尊敬の思いをいつも持っていました。クラウンや入れ歯を作る際、技工士の先生にお忙しい中、長時間にわたって指導をしてもらい患者様の診療日に間に合わせることができました。また治療計画や治療方法などの詳細をそれぞれバックグラウンドの異なる患者様にわかりやすく丁寧に説明をしている先生方の目配りや対応を目の当たりにし、的確な治療や予防ができる技術や知識はもちろん、相手の立場に立つて行うという誠実さを臨床実習の中で教えてもらいました。

歯科の最前線に出るのはあと半年後ですが、臨床実習の中で学んだことや感じた初心を忘れず、誠実に確実に成長し、指導をくださった先生方のようなプロになりたいと決意を新たにしました。自分に勉強のチャンスくれた11人の患者様と新潟大学歯学部にご感謝します。ありがとうございました。

総合診療室での臨床実習を経験して

歯学科6年 本間 陽子



早いもので臨床実習期間も半ばを過ぎ、もう数ヶ月もすれば5年生に引き継ぎとなります。総合診療室での実習となるとそれまでの講義や模型を使った基礎実習やポリクリとは異なり、患者様が相手となりました。それは、文句も言わずいくらでも口を開けていてくれる模型ではなく、また少々失敗してもごめん済む友達でもなく、実際にお口の中に何かしらお困りのことをもつ「生きた」患者様でした。患者様が相手となる

とやはりその責任は重圧なもので、今までの実習とはまるで異なり「こんなもんでいいかな？」などという妥協は一切なく、患者様のためにはどうしたら一番いいのかを真剣に考えましたし、またうまくできない自分に苛々したりもしました。患者様には長時間の治療を強いてしまうし、その上うまくできず同じことをするためにもう一度患者様に足を運んでいただくこともありました。しかしそんな時でも帰り際には患者様に「ありがとうございました」と言われ、ほんとお礼を言いたいのはこちらの方で、胸が苦しくなる思いをしました。1年間こんな未熟な私にいやな顔一つせず付き合っただき、お口の中を任せてくださった患者様に感謝してもしきれません。

臨床実習を行うにあたり、5年生までに受けた講義や基礎実習やポリクリがどれだけ重要であったかを身にしみて感じました。また逆に実際に患者様を通して経験することで、いままで漠然と単語の暗記のようだったものが、初めて理解したりできることもたくさんありました。そしてまた臨床実習を通して患者様に対する心配りや接し方なども学び、コミュニケーションの大切を実感することができました。

患者様にはたくさんのご迷惑をおかけしましたが、そのおかげで多くのことを学ばせていただき、とても充実した実習だったと思います。医療とはいつでも結局「人」と「人」との関わりであり、信頼の上に成り立っているのだということを改めて実感しました。

これから先もこの初心を忘れず、本当に患者様に信頼していただけるような歯科医師を目指して日々頑張りたいと思います。

最後になりましたが、患者様をはじめ、ご指導くださったライターの先生方、苦楽を共にした同窓生の皆さん他、これまで私を支えてくださった皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。